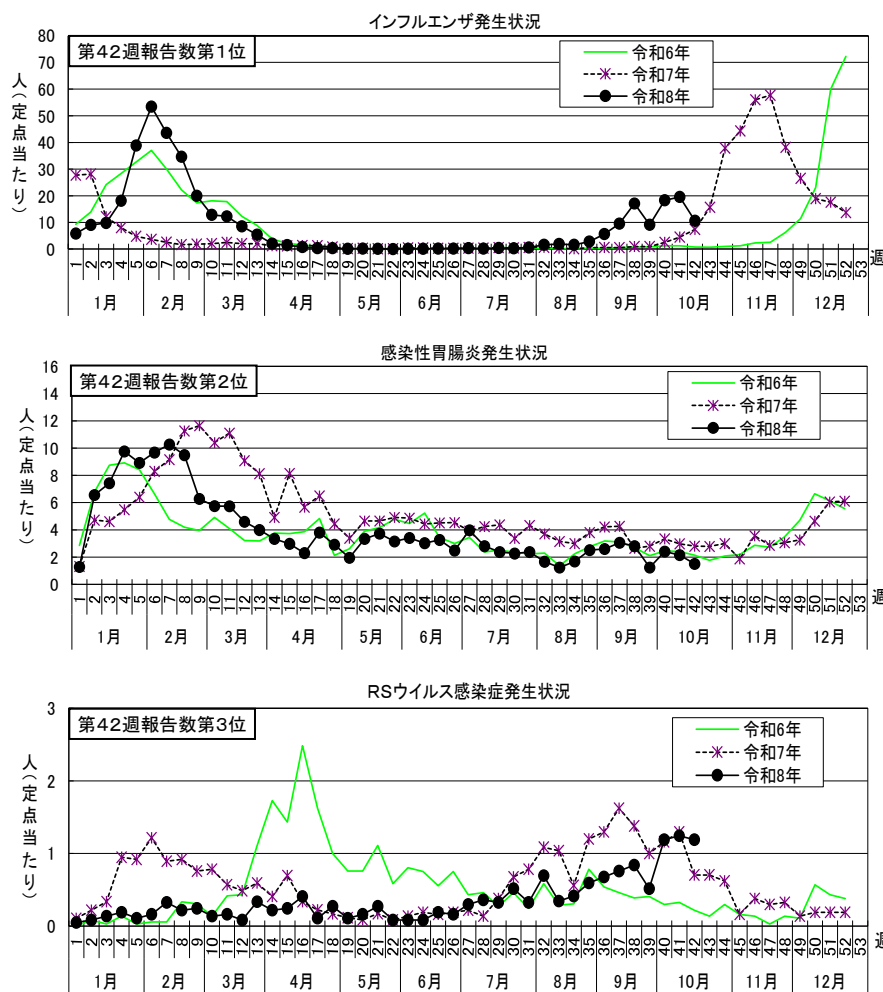


今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和8年10月12日（月）～令和8年10月18日（日）〔令和8年第42週〕の感染症発生状況

第42週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）インフルエンザ 2）感染性胃腸炎 3）RSウイルス感染症でした。
インフルエンザの定点当たり患者報告数は10.59人と前週（19.59人）から減少し、例年並みのレベルで推移しています。
感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は1.51人と前週（2.16人）から減少し、例年より低いレベルで推移しています。
RSウイルス感染症の定点当たり患者報告数は1.19人と前週（1.24人）から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。

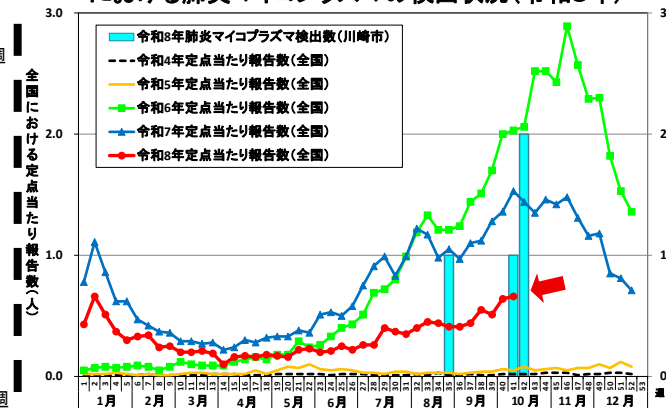


今、気をつけたい感染症～マイコプラズマ肺炎～

全国における今年のマイコプラズマ肺炎の報告数は、7月中旬から徐々に増加しています。川崎市では、急性呼吸器感染症として健康安全研究所に搬入された検体から、8月下旬に今年初めて肺炎マイコプラズマが検出され、第41週（10月5日～10月11日）以降は2週連続で検出されました。

マイコプラズマ肺炎の症状は、発熱、倦怠感に続いて咳が現れ、解熱後も咳が3～4週間程度続くのが特徴です。通常は自然に回復しますが、早期の適切な抗菌薬治療が有効です。咳症状が続く場合には、早めに医療機関を受診しましょう。

全国におけるマイコプラズマ肺炎の発生状況（5年間）及び川崎市の急性呼吸器感染症病原体サーベイランスにおける肺炎マイコプラズマの検出状況（令和8年）



マイコプラズマ肺炎とは？

病原体：肺炎マイコプラズマ

感染経路：飛沫感染、接触感染

潜伏期間：通常2～3週間

主な症状：発熱、だるさ、頭痛、乾いた咳
※多くは軽症だが、様々な合併症を併発する場合もある。

好発年齢：15歳未満が約8割を占める。

治療：抗菌薬の投与等

予防対策



マスクの着用 咳エチケット 石けんによる手洗い